輸出作物生産と階層

—— ガーナのココア生産農村の事例から ——

高 根 務*

Economic Differentiation and Export Crop Production in a Ghanaian Village

Tsutomu Takane*

This paper analyzes the economic differentiation in a cocoa-producing village in southwestern Ghana. The method of “wealth-ranking” developed by Grandin (1988) is used to identify the economic differences among households and individuals in the village, and the result is examined vis-à-vis various socioeconomic variables.

The economic differentiation in the village is closely associated with the scale of cocoa production, land holdings, age, gender, and labor arrangement. Male farmers tend to enjoy larger landholdings and more cocoa harvest, thus higher economic status than female counterparts. In addition, women are likely to obtain their own land at their later age than men, contributing further disadvantage in cocoa production (which requires years before trees start bearing fruits). Rich farmers use more hired labor than poor counterparts, but poor farmers also employ farm laborers for certain tasks. This is especially true for poor female farmers who have no access to male labor in the household and whose reproductive duties prevent them from concentrating on farming. These disadvantages all contribute to the relatively lower economic status of women in the village.

Other findings are: (1) Younger farmers tend to be classified as poor, but individual economic status may change considerably over one's life cycle as the result of land acquisition from relatives; (2) due to indigenous land tenure systems limiting the transfer of land, land accumulation in large scale by prosperous farmers (observed earlier by Hill (1963) in Southern Ghana) did not occur; (3) indigenous arrangements allow landless farmers and poor farmers to obtain or expand, with little capital, their own land, thus; (4) further differentiation between land accumulating class of rich farmers on the one hand, and the landless farm laborers on the other, is neither observed nor likely to occur in near future in the village.

* アジア経済研究所

Institute of Developing Economies, Tokyo

1. はじめに

本稿の目的は、輸出作物生産と経済的格差（階層）の関係を、ガーナ南西部の一ココア生産農村の事例を使って明らかにすることにある。そしてそこに見いだされた階層構造が、地域の土地制度、労働関係、ジェンダー関係、居住集団の構造などの様々な要因と密接に関連している事実を明らかにするとともに、この階層構造の変動の方向性について考察を加える¹⁾。

本稿でおこなうような、村落内部の階層構造を明らかにする作業の意義は、それがアフリカの農村社会に内在する、経済的格差の力学を解明する出発点になることである。現在のアフリカ農村社会の社会経済的状况には、農民間の経済的格差を拡大する階層化の力学が働いているのか、あるいは逆に格差を抑制する均質化の力学が働いているのか。また、農村社会内部の経済的格差の動態に、輸出作物の生産がどのような影響を与えているのか。本稿は輸出作物のココアの生産が第一の経済活動である一農村の事例研究から、上記のような農村社会内部の経済的格差の実態とその力学の解明に近づこうとする試みである。

ガーナにおけるココア生産は、19世紀末に南部のアクワピン（Akwapim）地域で開始され、その後急速にガーナ中部、西部へと生産地域は拡大していった。そしてこの拡大を担っていたのは、常にガーナ人の農民であった。白人入植者や国営農場によるプランテーションはガーナでは発達せず、ガーナ人農民による個人経営がココア生産拡大の主役であった。また、このココア生産地域の急速な拡大を支えたのは、未開墾地を求めて農村地帯に移住した、多くの移住農民であった（Nyanteng 1980, Arhin 1986）。

このように急速に拡大したココア生産に関する社会科学的な実態調査は、1940年代以降様々な視点から行われてきた（Beckett 1944, 1945, Hill 1957, 1963, Benneh 1970, Okali 1975, 1983, Okali and Kotey 1971, Arhin 1986, Mikell 1989）。なかでも重要なのは、ガーナ南部（主にAkim地方）で調査をおこなった、Hillのバイオ

ニア的な研究である（Hill 1957, 1963, 1970）。Hillはこの調査から、1950年までの初期のココア生産の拡大を支えた移住農民達が、ココア生産からの利益を土地の購入に再投資して規模を拡大していくという、きわめて「資本主義的」な経営をおこなっていることを指摘した。彼女はこれによって、小規模・零細というそれまでのココア農民のイメージを一新するとともに、ココア生産農村には土地を集積する「資本主義的」な農民層が存在すると論じた。これに対して山田（1971）は、Hillが指摘した資本主義的な農民の存在という事実から短絡的に農村部における資本家的農民と農業労働者の分離という図式を導き出すことの誤りを指摘した。またKonings（1986）は、マルクス主義的な立場からココア農民間の格差を階級（class）の視点で分析し、上部階級における資本家的なココア農民の存在を確認しつつも、国家によるココア生産および流通への介入と余剰の収奪のために、資本家層の形成が妨げられたと論じた。

このようにガーナのココア生産と農民間の経済的格差の問題は、これまでのところ輸出作物生産の拡大とそれにとまなう資本主義的農民の台頭、およびそれに影響を与える労働力の供給と国家政策の視点などの、マクロなレベルから論じられることが多かった。同様の傾向は、他のアフリカ諸国での換金作物や輸出作物の生産と階層化の問題を論じる場合にも見られる（児玉谷 1985, Sender and Smith 1990）。本稿での筆者の立場は、この問題に関する上記の先行研究の議論をふまえながら、比較的研究蓄積の少ない村落レベルでの分析によって農民間の経済的格差の実態を明らかにし、経済格差と輸出作物生産の問題をよりミクロな局面で考察しようとするものである。これによって、経済格差の動態と密接な関わりを持つ土地と労働の問題を詳細に検討することが可能になるのに加え、親族関係、ジェンダー関係、村民のライフサイクルなど、マクロなレベルの議論では扱われてこなかった要因にも光を当てることができるからである。

以下ではまず、調査地の概要とそこでのココア生産の実態を明らかにし、次に村落内の階層構造

を抽出するために採用した方法を説明する。その後、抽出された階層構造の特徴をココア生産、土地制度、労働関係、ジェンダー関係など、様々な角度から分析し、村落内の階層構造を規定する諸要因について論じる。最後に、調査村の階層構造に、労働力、村民のライフサイクル、構造の固定性と流動性、階級 (class) の未形成、の各視点から考察を加えて結論とする。

2. 調査地の概要とココア生産の実態

(1) 調査地の概要

調査村の選定をおこなうための予備調査は、1995年7月にガーナ南西部で行い、移住村のベボアセ村を調査地に選定した。調査地をガーナ南西部に設定した理由は、この地域が1950年代以降に発生した比較的新しいココア生産地域であり、かつ国内で最もココアの生産量が大きい地域であることによる。上述した先行研究は、1950年以前に拡大した古いココア生産地域を主な調査対象としており、新しい生産地帯のガーナ南西部地域は今後のガーナのココア部門にとって重要な地域であるにもかかわらず、実態調査はあまりおこなわれていない。また、地元民の村でなく移住村を選択したのは、この地域でのココア生産の多くは、土地を求めて他地域から移住してきた移住農民によっておこなわれているためである。ベボアセ村での本調査は、1995年9月から11月にかけて実施し、面接と聞き取りによる村の農民の悉皆調査をおこなった。

ベボアセ村は、首都アクラから約470 kmの道のりを経たガーナ南西部の森林地帯に位置し、行政的には西部州ジュアベソ地区 (Western Region, Juabeso District) に位置する。年間降雨量は1500 mm-2000 mmで、雨期は7～8月の小乾期をはさんで4月頃から11月頃まで、年間降雨日数は100～120日で最も雨量の多いのは6月である (MacMillan 1987)。

ベボアセ村はセフィ人 (Sefwi) の居住する地域に位置し、伝統的政治組織の上では、政治小都市ベンチマに居住するベンチマ首長 (Benkyi-

mahene) の管理下にある。さらにこのベンチマ首長は、他地域を統括する他の首長と共にセフィ人の王 (omanhene) の管理下にある。ベボアセ村を含むセフィの土地すべては究極的に王に帰属するが、実際の管理はベンチマ首長にゆだねられている。

ベボアセ村には34のコンパウンドがあり、1995年10月現在の人口は243人である。住民をエスニックグループ別にみると、アクワピン (Akwapim) とアヌム・ボソ (Anum/Boso) が多く、両者で全体の79%を占めている。地元民のセフィ人は村に1人もいない。村内の通常の会話は、アカン語 (Akan) で行われている。相続制度にはエスニックグループによって母系相続 (wofa adidie) と父系相続 (agya adidie) の両方があるが、実際の相続の場面では必ずしもエスニックグループごとの相続制度が踏襲されているわけではなく、両者の制度の混在や父系相続への傾斜が見られる。

ベボアセ村の経済活動の中心は農業であり、経済的活動年齢にある男女 (15歳以上128人) のうち68% (87人) が何らかの形で自分の耕作地を持って耕作おこなっている。ココア生産については、全コンパウンド数34のうち33までがココア生産をおこなっており、ココア生産に従事する人数は15歳以上男女の60% (76人) である。収穫されたココアは、村にあるココア買い付け会社に販売される。トウモロコシ、プランテンバナナ、ココヤムなどを主とする食糧作物の生産はすべての農民が行っており、これら食糧作物は、自家消費用と販売用の両方に使われる。食糧作物は毎週木曜日に村から7 kmほどのアサウィンソ (Asawinso) でひらかれる定期市に持ち込まれ、販売される。農業以外では、学校の教師、ココア買い付け会社の職員など、給与所得者が少数存在する。ただしこれら給与所得者も、例外なく農業に従事している。これ以外にも、村内の需要に応じて、簡単な加工食品の販売や農業労働をおこなって収入を得ている村民もいる。

(2) ココア生産の実態

ベボアセ村は、ココア生産を目的として移住し

てきた人々とその子孫によって構成されており、現在もココア生産は村の経済活動の中心である。以下では、このココア生産のための基本的な生産要素である土地と労働についての実態を明らかにする。ココア生産における土地と労働は、村内の経済的格差と密接に関連しており、その実態の理解は村の階層構造を明らかにするうえで欠かせない。

(a) 土地

ベボアセ村周辺の約4.8 km四方の土地は、1945年にベンチマ首長から現在の村長の父方祖父に委託され、彼を通じてアクワピン (Akwapim)、ブラク (Beraku)、アヌム・ボソ (Anum/Boso) の各地域出身の人々に分割して与えられた。各地域から最初に移住してきた農民達は、ベンチマ首長に支払った金額の大きさに応じて土地を分割・取得し、食糧作物とココアの生産を開始した。

ベボアセ村での土地制度を論じる際には、土地の保有権²⁾と用益権の区別を明確にする必要がある。土地の保有権は、土地を保有しその贈与・相続・使途を決定することのできる権利であり、用益権はある土地で耕作することのみを許される限定された権利である。ベボアセ村で農地の保有権あるいは用益権を取得するには、以下の方法がある。

① 分益小作

ベボアセ村には、ココア農地の管理を他者に委託する契約が2種類ある。その第一が分益小作契約である。この契約では、ココア農地を保有する者 (afuowura) と管理者 (ohwesoni) との間で、ココア収穫時に管理者は収穫の1/3を、農地保有者が2/3をそれぞれ取り分とする合意がとりかわされる。通常この分割方法はアカン語で「三分割」を意味する“abusa”の名前で呼ばれる。ココア農地で必要な除草、収穫などの労働は、ほとんど管理者がおこなう。管理者が食糧作物を耕作するための土地は、通常ココア農地の保有者によって一時的に無料で与えられる。この契約で管理者が得るのは農地の用益権で、保有権ではない。

② 農地分割契約

ココア農地の管理を他者に委託する第二の方法は、将来の農地の分割を予定した契約である。この契約で管理者は、土地保有者に一定の金額を支払い、未開墾地の開拓、ココアの植栽、ココア樹が成長するまでの農地管理などのいっさいを引き受ける。契約後一定期間が経過してココア樹が十分に成長した時点で、このココア農地は等分割され、半分はもとの土地保有者、残る半分は管理者の保有となる。この分割方法は、アカン語で「二分割」を意味する“abunu”の名で呼ばれる。農地の半分が管理者に移譲されるまでに収穫されたココアからの収入は、管理者と土地保有者で等分割されることが多い。ココア樹が成長するまでの間に収穫される食糧作物は、管理者の保有となる。この契約で管理者が当初得るのは土地の用益権であるが、一定期間後には管理者は開墾した農地の1/2の保有権を得ることになる。この契約には、管理者にとっては将来自分のココア農地を取得できるメリットがあり、他方土地保有者にとっては自ら労働することなくココア農地を造成できるメリットがある。

分益小作が、収穫物を分割する契約であるのに対し、農地分割契約は最終的には農地を分割する契約であり、両者は質的に異なっている³⁾。つまり、分益小作の場合は管理者はあくまで農地の経営を任されているのみであって農地保有者にはなり得ないが、農地分割契約の場合の管理者は、将来の農地の保有を約束されたいわば「潜在的農地保有者」である。ただし、ベボアセ村の土地の処分権は全てベンチマ首長にあることから、この農地分割契約によってココア農地を取得することは公には許されていない。またこの農地分割契約においては、契約を開始してから何年後に農地を分割して管理者が完全な農地保有者となることができるかについては、必ずしも明確に合意されていないことも多い⁴⁾。

③ ココアの植栽を条件とした一時的な借用

この契約では、農民が食糧作物を耕作するために土地保有者から土地を一時的に借り受け、その条件として、借り受けた農民は土地保有者のためにその農地にココアを植栽することが義務づけら

れる。借り受けた農民はその土地を無料で使用して食糧作物を生産・収穫し、収穫物を自分のものとするができるが、植栽したココア樹が成長した時点（2～3年後）で農地は土地保有者に返還される⁵⁾。つまり、この制度では一時的な農地の用益権が与えられるだけで、保有権は変化しない。

④ 条件のない一時的な借用

村外から来て村の学校の教師やココア買い付け会社の職員などをしている人々には、村内の土地保有者から一定の土地が無料で貸し出されて食糧作物の耕作が許される。この場合の土地の使用権は一時的なもので、数年後に耕作者が転勤などで村を離れた場合、土地は自動的に保有者に返還される。そのため、この土地にはココアなどは生産されない。また、村の住民の中にも、食糧作物の耕作のために、親族や知人などから数年間農地を無料で使用することを許されている例も数例ある。いずれの場合も、耕作者は一時的な用益権を得るのみで、土地の保有権に変化はない。

⑤ 土地の購入

土地は究極的にセフィの王に帰属していることから、個人が土地を売却・購入することは公には許されていない。しかし実際には、土地を購入して取得した例も少数だが存在する。この場合は、土地を「売る (ton)」という表現よりも、土地（保有）を「変える (dane)」という表現が選ばれることもある。この場合も土地保有者が単に「変わった」だけではなく、相応の金額がもとの保有者に支払われており、事実上は「売られて」いることには変わりない。この場合、当然ながら土地の保有権は移動する。

⑥ 親族への贈与・相続

土地の販売は公には許されていないが、自分の親族や妻子に土地を贈与あるいは相続して保有権を移譲することは可能である。実際ベボアセ村民の多くはこの方法で農地を取得している⁶⁾。土地保有者が死亡した場合、故人の土地を分割せずに、子供たちや親族が共同で保有・管理する例もある。

上記の分類のうち、土地保有権を得る方法は「土地の購入」「親族からの贈与・相続」「農地分

割契約」であり、土地用益権を得る方法は「分益小作」「ココアの植栽を条件とした一時的な借用」「条件のない一時的な借用」である。このうち、耕作者が自分の意志でココア生産を決定しかつ収穫を自分のものとするができるのは、土地の保有権を得た場合に限られる。耕作者が土地の用益権のみをもつ場合は、農地にココアが植えられてはいても、ココア生産に関する決定権は耕作者ではなく土地の保有者にある。一方、食糧作物の生産に関しては、土地の保有権・用益権のいずれかを得ていれば、農民は生産に関する決定権を得ることができる。

土地保有権の有無と、栽培作物の選択（ココアを植えるか食糧作物を植えるかの選択）の実際との関係を、ベボアセ村の15歳以上の男女について分類したのが図1である。この図から、ココアを生産するかどうかの決定に際しては、土地保有権の有無が決定的な規定要因となっていることがわかる。自分の土地を保有するほとんどの農民はココ

図1 土地権利の形態とココア生産

注：ベボアセ村の15歳以上の人口は127人（男73人，女54人）である。図中の数字は順に、15歳以上人口に対する％，事例総数，男性と女性の事例数を示す。親族の共同保有の土地を使っている場合と，将来確実に自分の保有となる土地（農地分割契約を除く）を使っている場合は，「自分の土地あり」として分類した。また，ココア買い付け会社の職員1名は分類からはずした。

アを生産している。自分の土地がありながらココアを生産していないのは2例で、いずれも土地がココア生産に適さないために食糧作物のみを生産している事例であった。

土地保有権のない者は、農地分割契約や分益小作を通じてココア生産に関わるか、あるいは他人の土地での用益権を得ることによって食糧作物生産をおこなうことができる。このうち農地分割契約でココア生産をおこなう農民は、将来の土地保有が確実な潜在的な土地保有者である。用益権を得てココア生産をおこなう場合、最終的な決定権は土地保有者にあるが、農地で生産する食糧作物については耕作者が決定権を有する。

土地保有権も用益権も持たない者は、親族や他人の農地での労働に従事することになる。通常、これらの人々は、食糧作物生産・ココア生産のいずれに関しても決定権を持たない。このカテゴリーに属するものとして2種類想定できる。第一は、自分の耕作地を持たずに、夫・戸主・親族などが保有する農地での生産を手伝う人々である。彼らは生産に関する決定権はないものの収穫物からの利益にアクセスでき、かつ将来土地の贈与や相続によって土地保有者となる可能性がある。第二のカテゴリーは、土地保有権も用益権もなく、かつ土地を保有する親族もない人々である。他人の農地での労働で得た賃金のみによって生計を立て、親族からの土地の贈与や相続の可能性もない、土地なし農業労働者がこのカテゴリーに入る。しかし、ベポアセ村ではこのような土地の保有権も用益権も持たず、土地の贈与・相続を受ける可能性もない農業労働者は存在しない⁷⁾。

以上、ベポアセ村の住民は土地への権利関係を軸に、4つのカテゴリーに分類できる。すなわち、①土地保有者（そのほとんどがココア生産者）、②農地分割契約でココア生産をおこなう潜在的な土地保有者、③土地の用益権のみを持つ者、④保有権も用益権も持たず親族や他人の農地での労働に従事する者、である。

(b) 労働

ココア生産における労働力の調達、土地への

権利と同様に非常に重要である。農作業を行うにあたっての、本人以外の労働力の源としては、以下の種類がある。

① 家族労働力

夫や妻、子供などの家族労働力は、もっとも多く使われる労働力である。通常この労働力の供給に際しては契約にもとづく報酬は支払われないことが多い。しかし家族による労働供給も無償労働とは限らず、何らかの報酬や労働の相互供与を伴うことも多い。

② 農地管理者 (ohwesoni)

前述したように、ココア農地保有者は農地管理者と分益小作や農地分割契約を結び、農地の管理を委託する。農地管理者は、成長したココア畑の管理・収穫（分益小作の場合）や、ココア畑の新規造成・管理（農地分割契約の場合）をおこなう。農地分割契約や分益小作の契約で管理者になる農民は、男性が圧倒的に多い⁸⁾。

③ 日雇い労働者 (baadeini=英語の“by day”からの転用)

農地保有者および用益権保有者は、日払いで農業労働者を雇い、自分の耕作地での除草、ココアの収穫作業などを行わせる。賃金は一定で、その金額は毎年村の長老会議によって決められる。

④ 契約労働者 (opaani)

契約労働者を雇用する場合は、農作業の内容に応じて、雇用者と労働者が交渉によって賃金を決定する。農作業の内容は、一定面積の農地の新規開墾、一定面積の除草、乾燥の終わったココアの買い付け所への運搬などである。

⑤ 共同労働-1

(compani=英語の“company”からの転用⁹⁾)

ココアポッドを一カ所に集める作業、集めたココアポッドを割って中身を取り出す作業、発酵の終わったココアを乾燥のために村まで運搬する作業などは、親族や近隣者および同郷出身者などによる共同労働で行われることが多い。この労働に対して報酬は支払われないが、依頼者は参加者に対して食事を提供する。通常この共同労働は、半日程度で終了する。

⑥ 共同労働-2 (nnoboa)

男性が数人のグループを作り、必要に応じて相互の農地での労働を無償で行う。労働に際して、食事の提供が行われることもある。またこのグループが、報酬を目的として、他人の農地で上記の契約労働 (paa) を行うこともある。ベボアセ村における nnoboa グループは6事例あり、グループの人数は2~3人、年齢は15~52歳までと幅広いが、ほとんどは30代前半までの比較的若い年齢層である。グループのメンバー間に親族関係が存在する場合もある。またメンバー構成は必ずしも固定的ではない。

一連の農作業の中で最も重労働である未開墾地の開墾作業については、契約労働者、日雇い労働者、共同労働 (nnoboa) などを使用する傾向が強い。また特に女性農民は、この作業に際して夫や成長した子供の労働力を使用する傾向が強く、逆に男性農民はこの作業を自分で行う傾向がある。さらに開墾作業では、家族労働力のうち特に男性の労働力を使用することが多く、同時に家族以外の労働力 (雇用労働力や共同労働の労働力でほとんどが男性) を使用する傾向も強い。

上記のような特定の農作業を除いた大部分の労働は、本人と家族の労働力 (特に夫、妻、子供の労働力) によって行われている。分益小作や農地分割契約で管理者が農作業を任されている場合を除き、農作業をすべて雇用労働でまかなっている事例は皆無で、家族以外の外部からの雇用労働力はあくまで二次的な労働力源となっている。

また全体として男女間の農作業分担に、排他的な傾向は見られない。上記の未開墾地の開墾作業のように男性が相対的に多く労働を行う農作業はあるが、この場合も女性農民がこの作業を行わないわけではない。あくまで、男性がより多くその作業を行う、という違いがみられるだけであって、農作業ごとの明確で排他的な性別分業には至っていない。

ベボアセ村でのココア生産は、上記のような土地制度と労働関係を基礎に成り立っている。そしてこれら3者の相互関係は、次に述べる村落内の階層構造と密接に関連している。

3. 村落内部の階層構造とココア生産

(1) 調査方法

本調査では、村落内の経済的格差としての階層を抽出する方法として、住民自身の判定を基準にした “wealth-ranking” を採用した。この方法は、村落内の事情に詳しい住民数人に、村内の居住集団や個人をその経済的地位に基づいて階層ごとに分類してもらい、これを集計して村落内の階層を抽出するものである (Grandin 1988, Hill 1972, IIED 1992, Scoones 1995)。

村落内における階層を抽出する方法には様々な方法がある。例えば、ある村落経済において重要な指標 (例えば農産物の生産量や農地面積など) をいくつか抽出してそれに基づいて階層を決める方法 (児玉谷 1985, Konings 1986)、各世帯の家計調査に基づいて決定する方法、各世帯が所有する消費財の数と種類によって決定する方法 (Sender and Smith 1990) などである。

本調査で住民による wealth-ranking を階層の指標として採用した理由は、第一にこの方法の簡便性にある。通年にわたって各世帯の家計調査を行う方法は、経済的格差を金額で示すことができる点で優れているが、調査にかかる時間的コストと労働力が莫大なため、より簡便な wealth-ranking の方法が本調査の実施上の制約からより適切であった。wealth-ranking の第2の利点は、階層を形作る多様な要素が、住民自身の判断によって採用される点である。少数の経済指標のみによって階層を描き出した場合には、それら指標以外の要因は考慮に入れられない。特に採用した指標が外部者によって選択された場合、描き出された階層構造には特定のバイアスがかかるおそれもある。住民自身が採用する基準によって構築される wealth-ranking は、このようなバイアスを避けることができる。第3の利点は、村落内の事情を熟知している住民を情報源とすることによって、村での日常生活に現れない経済活動も考慮に入れることが可能になる点である。ベボアセ村は移住農民によって構成されているため、村での収入はそれぞれの出身地 (“hometown”) での土地購入

や家の建築などに使われることも多い。またベボアセ村での活動資金の源が hometown の親族である例などもある。そのため村落内で観察される経済活動（たとえば消費財の購入や住居の新築など）のみによっては、実際の経済力を計ることができない。このような村内では観察できない経済活動も、個々の住民の hometown の状況をよく知っている村民を情報提供者として採用することによって、かなりの程度考慮に入れることができる。

wealth-ranking によって抽出された階層の最大の短所は、それがあつた村落内における相対的な階層であり、他地域との比較に際して不可欠の、個々の世帯や個人の経済力の絶対的な位置づけ（例えば年間粗収入の値など）ができないことである。ただし本調査では、一村境内における階層間の質的な相違を分析の重点としているため、そのような絶対的な数値の不足はさほど問題にはならない。

村内の居住集団を単位とした階層の抽出のために協力してもらつたインフォーマントは4人（男女2人ずつ）で、その選択にあたっては、①村に10年以上在住し、村内の個々人の状況を熟知していること、②男女バランスに偏りがなかつたこと、③出身地域に偏りがなかつたこと、を条件とした。インフォーマントには、「金持ち (sikani, pl.asikafo)」であること、「貧乏人 (ohiani, pl.ahiafo)」であること、を基準に村落内の33の居住集団¹⁰⁾を分類してもらつた。分類に際しては居住集団の主な構成員を書き込んだカード（一居住集団につき一枚）を、その経済的地位を基準に個々のインフォーマントに自由に分類してもらい、分類に際して「ランク」の数をいくつにするかも個々のインフォーマントに任せた。こうして各インフォーマントが作成したランクづけを集計することによって、各居住集団の階層を決定した¹¹⁾

居住集団を単位とする wealth-ranking に加え、個人を単位とした wealth-ranking も同様の方法で作成した。個人単位の wealth-ranking の作成に協力してもらつたインフォーマントは、居住集団単位の作業を行った4人のうち2人（男女1名

づつ）と、もう1人別のインフォーマント（男性）を加えた合計3人である。個人単位の wealth-ranking で分類の対象としたのは、何らかの形で自分の耕作地で耕作をおこなっている村民86人（男54人、女32人）である¹²⁾。

居住集団と個人の2つの単位で wealth-ranking を作成した理由は、ベボアセ村では居住の単位（居住集団）と、生産活動や収入管理を行う単位とが必ずしも一致していないためである。いわゆる「同じ釜の飯を食う」意味での消費の単位は、居住の単位と同一である場合が多い。しかし農業生産においては、居住集団の構成員のうち自分の耕作地を持つ者が、それぞれ独立した生産単位を形成する。一居住集団内で耕作地を持つ者が1人だけ（多くの場合男性戸主）の場合は、妻や子供の労働力を使用して一個の生産単位が構成される¹³⁾。夫、妻、成長した子供、同居する親族らがそれぞれ別の耕作地を持っている場合は、それぞれが個別の生産単位を形成し、一居住集団内に複数の生産単位が存在することになる（図2の事例）。同じように、収入の管理の単位も、居住集団内で収入のある男女が個々人でおこなっている。したがって同一居住集団内で複数の生産単位が存在する場合、各構成員はそれぞれの農地からの収入を個別に管理する¹⁴⁾。また、妻が自分の農地を持たずに夫の農地で労働提供する場合も、収穫後に妻は何らかの報酬（食糧作物を自由に売る権利やココア売却金の一部など）を得、その収入の管理は自分で行う。この場合は、夫と妻で1つの生産単位を形成しつつ、両者が別々の収入管理の単位を形成していることになる。子供の学費などの居住集団内の必要経費の支出は、一般に戸主である男性の年長者が負担すべきとされているが、実際には各人が経済状況に応じて相応の負担をおこなっている。

このように、収入の管理や生産活動の単位は個人が中心となっている一方で、消費や農地での労働供給の面では居住集団の構成員相互のつながりも深い。このことから、ベボアセ村の階層構造の理解のためには、居住集団単位に加えて個人単位の経済格差にも注目することが、より適切である

と考えられる。事実、居住集団単位の wealth-ranking を作成途中に、インフォーマントの一人が、同一居住集団内に「金持ち」の夫と「貧乏」な妻が同居している場合の判断が難しいので、個人ごとに wealth-ranking をしたほうがやりやすい、との意見を述べたことがあった。このことは、村民自身も同一居住集団内に存在する個人ごとの経済格差を明確に認識していることを示している。

(2) ベポアセ村の階層構造

上記の wealth-ranking の方法によって、居住集団単位については3つの階層 (Rich, Middle, Poor) を、個人単位については6つの階層 (Rank1~Rank6) を抽出した。この2種類の階層の相関関係は、表1に示したとおりである。この表から明らかなことは、“rich” のカテゴリーに分類された居住集団の構成員全員が必ずしも個

人としても階層が上であるとは限らないことである。居住集団として“rich” の階層に分類されている構成員の半数近くは、個人としては“rank 4” 以下の下位の階層に分類されている。同様に“middle” に分類された居住集団の構成員は、個人としては“rank 2” から“rank 6” までの各層に分散している。

一方、居住集団で分類した階層と、個人で分類した各居住集団の戸主の階層を比較してみると、両者に相関関係があることがわかる (表2)。このことは、居住集団ごとの階層は、構成員のうち特に戸主の経済力によって決まるところが大きいことを示している。ただし、個人として低い階層に位置づけられている村民のうち、居住集団として“Rich” のカテゴリーに含まれている人 (特に上部階層に属する戸主を父に持つ息子など) は、将来戸主からココア農地を含む土地を相続または贈与される可能性が高い。そのため、彼らは将来一気に経済的地位を向上させる可能性のある、いわば潜在的な上部階層候補であるとみることができ

る。表3~5は、居住集団と個人を単位とした各階層と、様々な社会経済指標との関係をまとめたものである。この表から、以下の特徴が読みとれる。

まず、個人ごとの階層と年齢との間には、階層

注: () 内は村外に居住

図2 居住集団内の経済関係の一事例

解説: 居住集団の構成員は全員「同じ釜の飯を食う」。つまり、居住単位と消費単位は同一である。戸主とその子供のうち2人は自分の土地を持ち、3人は独立した生産単位を形成している。戸主は自分の農地での農業に際して自分の労働力の他に雇用労働力、妻、子の労働力を使う。同じく娘は、自分の労働力と雇用労働力、息子は自分の労働力と共同労働 (nnoboa) をそれぞれ使う。自分の土地を持つ構成員の収穫物は主に販売に回され、収入は各個人のものとなり、収入の管理は個人がおこなう。戸主の妻は自分の農地を持たず、夫の農地で労働提供を行う。妻はその報酬として夫の食糧作物農地を半分に線引きして、その半分の農地から収穫された食糧作物を自由に販売して自分の収入とすることができる。自家消費用の食糧作物は、残り半分の夫の食糧作物農地からの収穫物を使用する。居住集団の食費を含む必要経費は、ほとんど戸主が負担する。

表1 居住集団の wealth-ranking と個人の wealth-ranking の関係

		rich ← → poor					
居住集団	個人	rank 1 N=6	rank 2 N=15	rank 3 N=15	rank 4 N=15	rank 5 N=18	rank 6 N=17
		6	4	3	6	1	4
Rich							
Middle		0	11	9	4	4	6
Poor		0	0	3	5	13	7

表2 居住集団の wealth-ranking と戸主の個人 wealth-ranking の関係

		rich ← → poor					
居住集団	戸主個人	rank 1 N=8	rank 2 N=14	rank 3 N=11	rank 4 N=15	rank 5 N=18	rank 6 N=17
		6	2	0	0	0	0
Rich							
Middle		0	8	6	0	0	0
Poor		0	0	2	3	6	0

が上の人ほど年齢が高くなる傾向が明確に認められる。また階層が上であるほど既婚者の割合も増加している。これは、年齢が高くなるにつれて土地を相続したり土地の贈与を受ける機会が多くなること、結婚によって妻・夫・子供などの労働力へのアクセスが増加すること、ココア樹は最大の収穫量を得られるようになるまで新規植栽後10～20年かかるため若年層は収穫量の少ないココアの

若木しか持たないことが多いことなど、様々な要因が影響していると考えられる。

階層と最も密接に関係しているものに、ココアの収穫量と土地保有面積がある（表3、表5）。居住集団を単位とした階層、個人を単位とした階層とも、階層が上であるほどココアの収穫量が多かつ土地保有面積も大きい。土地保有面積の大小とココアの収穫量も相互に関係が深いことから

表3 居住集団の wealth-ranking と社会経済指標の関係

wealth - rank	居住集団内ココア収量平均(bag)*1	居住集団内ココア収量事例数(bag*1)			土地保有面積*2			15歳以上人口平均	consumer - worker ratio*3	戸主がココア農地管理者*4	構成員がココア農地管理者*4	戸主が労働力販売*5	構成員が農業労働に従事*5	戸主の修学年数平均	女性が戸主の居住集団の数の数	formal jobに従事する人がいる居住集団の数の数
		<10	10<20	20以上	<10	10<100	100以上									
Rich N=8	28.3	0	3	5	0	4	4	4.5	0.60	2	4	0	4	6.0	0	4
		0%	38%	62%	0%	50%	50%			25%	50%	0%	50%		0%	50%
Middle N=14	10.8	8	2	4	5	8	0	3.8	0.54	6	10	2	6	5.9	3	4
		57%	14%	29%	36%	57%	0%			43%	71%	14%	43%		21%	29%
Poor N=11	5.3	10	0	1	6	4	0	3.1	0.60	4	6	6	8	7.5	2	1
		91%	0%	9%	55%	36%	0%			36%	55%	55%	73%		18%	9%

注：％値は、それぞれの wealth-ranking の事例数（Rich:8, Middle:14, Poor:11）に占める割合。

*1 1bag=64kg.

*2 単位は土着の単位（ahama）をもとにした平方 ahama。1ahama=約43.2m, 1平方 ahama は約1,866平方メートル。10平方 ahama=約1.87 ha。100平方 ahama=約18.7 ha。

*3 ある居住集団についての、15歳以上構成員数÷全構成員数（間借り者除く）

*4 分益小作や農地分割契約者でココア農地の管理者をしている事例数

*5 構成員が他人の農地での日雇い労働（haadei）や契約労働（paa）に従事している居住集団の数

表4 個人の wealth-ranking と社会経済指標の関係

Wealth - rank	平均年齢	男女別人数		ココア生産従事者数*3	ココア収量平均(bag)*4	労働力販売をおこなう事例数*5	nnoboaをおこなう事例数	農作業で雇用労働力を使った事例数*6	ココア農地管理者の事例数*7	formal job 従事者数	未婚者数	修学年数平均
		男*1	女*2									
Rank 1 N=6	61	6	0	6	24.5	0	0	6	2	0	0	5.7
		11%	0%	100%		0%	0%	100%	33%	33%	0%	
Rank 2 N=15	48	10	5	15	11.3	0	0	12	6	4	1	6.4
		19%	16%	100%		0%	0%	80%	40%	27%	7%	
Rank 3 N=15	48	8	7	11	3.7	3	0	10	6	2	2	5.7
		15%	22%	73%		20%	0%	67%	40%	13%	13%	
Rank 4 N=15	37	7	8	14	2.8	2	2	10	4	1	6	7.3
		13%	25%	93%		13%	13%	67%	27%	7%	40%	
Rank 5 N=18	37	12	6	14	1.3	10	7	8	6	0	7	6.3
		22%	19%	78%		56%	39%	44%	33%	0%	39%	
Rank 6 N=17	24	11	6	9	0	11	6	7	4	0	10	6.7
		20%	19%	53%		65%	35%	41%	24%	0%	59%	

注：表内の％値は、*1および*2を除いて、それぞれのランク内の事例総数に占める割合。

*1 ％値は、ランク付けされた男性総数（54人）に占める割合。

*2 ％値は、ランク付けされた女性総数（32人）に占める割合。

*3 分益小作や農地分割契約によるココア農地の管理者を含む。

*4 1bag=64kg.

*5 他人の農地で日雇い労働（baadei）や契約労働（paa）に従事している人の数

*6 自分の農地で日雇い労働者（baadeini）や契約労働者（opaani）を使用した人の数

*7 分益小作や農地分割契約でココア農地管理をおこなっている農民の数

(表6), 階層, 土地保有, ココア収穫量の3者は, 互いに密接に関連していることがわかる。

土地保有とココア収穫量との関係に, さらに男女別, 年齢別の相違を重ねると, ベボアセ村の階層構造はより明確になる。表7は, 15歳以上の村民について, 土地保有者の数, 土地保有面積, コ

コア生産者の数, ココアの収穫量のそれぞれを, 男女別, 年齢別, 婚姻関係別に比較したものである。この表から以下の特徴が読みとれる。

まず15歳以上の村民数に占める土地保有者の割合は, 男女間でほとんど差がない。しかし, 年齢別に見た場合には, 先に述べたように年齢が高く

表5 個人のwealth-rankingと土地保有面積及びココア収穫量の関係

Wealth-ranking	土地保有面積*1				ココア収量(bag)*2			
	0	0.1<10	10<100	100以上	0	0.1<10	10<20	20以上
	0	0.1	10	100	0	0.1	10	20
Rank 1 N=6	0	0	4	2	0	1	2	3
Rank 2 N=15	0%	0%	67%	33%	0%	17%	33%	50%
Rank 3 N=15	2	4	6	2	4	5	1	5
Rank 3 N=15	13%	27%	40%	13%	27%	33%	7%	33%
Rank 4 N=15	5	6	3	0	7	6	1	1
Rank 4 N=15	33%	40%	20%	0%	47%	40%	7%	7%
Rank 5 N=18	2	8	3	0	6	7	2	0
Rank 5 N=18	13%	53%	20%	0%	40%	47%	13%	0%
Rank 6 N=17	9	7	2	0	11	7	0	0
Rank 6 N=17	50%	39%	11%	0%	61%	39%	0%	0%
Rank 7 N=17	9	7	0	0	17	0	0	0
Rank 7 N=17	53%	41%	0%	0%	100%	0%	0%	0%

表6 土地保有面積及びココア収量の関係

土地保有者面積*1	ココア収量(bag)*2			
	0	0.1<10	10<20	20以上
	0	0.1	10	20
0	22	5	0	0
0.1<10	17	13	0	2
10<100	4	5	6	3
100以上	0	0	0	4

注: 表中の%値は, それぞれのwealth-ranking内に占める割合。

*1 単位は土着の単位 (ahama) をもとにした平方 ahama。1 ahama=約43.2 m, 1 平方 ahama は約1,866 平方メートル。10平方 ahama=約1.87 ha。100平方 ahama=約18.7 ha。親族で共同保有している事例と保有面積が不明の事例は除外。

*2 1 bag=64 kg。

表7 男女別, 年齢別, 未婚・既婚別の土地保有とココア生産

	15歳以上 合計	男女別		年齢別						婚姻関係別	
		男	女	15<20	20<30	30<40	40<50	50<60	60以上	未婚	既婚
ベボアセ村全体	128	74	54	23	37	29	16	9	14	55	73
土地保有者	58	35(47%)	23(43%)	4(17%)	11(30%)	16(55%)	9(56%)	6(67%)	12(86%)	12(22%)	46(63%)
土地保有面積*1											
<10	32	17(49%)	15(65%)	4(100%)	8(73%)	10(63%)	4(44%)	2(33%)	4(33%)	10(83%)	22(48%)
10<100	18	10(29%)	8(35%)	0(0%)	1(9%)	5(31%)	4(44%)	1(17%)	7(58%)	0(0%)	18(39%)
100以上	4	4(11%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	3(50%)	1(8%)	0(0%)	4(9%)
その他*2	4	4(11%)	0(0%)	0(0%)	2(18%)	1(6%)	1(11%)	0(0%)	0(0%)	2(17%)	2(4%)
ココア生産者(分益小作, 農地分譲契約)	69	44(59%)	25(46%)	3(13%)	13(35%)	22(76%)	11(69%)	8(89%)	12(86%)	16(29%)	53(73%)
ココア収量(bag)*3											
<5(0を除く)	19	10(23%)	9(36%)	0(0%)	3(23%)	5(23%)	2(18%)	4(50%)	5(42%)	5(31%)	15(28%)
5<10	7	6(14%)	1(4%)	0(0%)	1(8%)	2(9%)	3(27%)	0(0%)	1(8%)	0(0%)	7(13%)
10<15	5	3(7%)	2(8%)	0(0%)	1(8%)	1(5%)	1(9%)	1(13%)	1(8%)	0(0%)	5(9%)
15以上	10	10(23%)	0(0%)	0(0%)	1(8%)	1(5%)	1(9%)	3(38%)	4(33%)	0(0%)	10(18%)

表中の()内の値は, 以下の通り。

- ・土地保有者とココア生産者の欄の%値は, 男女別, 年齢別, 婚姻関係別の15歳以上の人数に対する割合。
- ・土地保有面積の欄の%値は, 男女別, 年齢別, 婚姻関係別の土地保有者数に対する割合。
- ・ココア収穫量の欄の%値は, 男女別, 年齢別, 婚姻関係別のココア生産者数に対する割合。

*1 単位は土着の単位 (ahama) をもとにした平方 ahama。1 ahama=約43.2m, 1 平方 ahama は約1,866 平方メートル。10平方 ahama=約1.87 ha。100平方 ahama=約18.7 ha。

*2 不明が1例, 親族での共同保有で個人の保有面積が特定できないのが3例。

*3 1 bag=64 kg。

なるにつれて土地保有者の割合が高くなっていく傾向が明確に現れている。また既婚者に占める土地保有者の割合も、未婚者のそれよりも高くなっている。

保有する土地の面積については、100平方ahama以上の大規模土地保有者4人は全て男性であり、しかも年齢が50歳以上であることがわかる。逆に各年齢別の土地保有者数に占める10平方ahama未満の小規模土地保有者の割合は、20歳未満で最も高く、年齢が上がるにつれてその割合が減少している。また未婚の土地保有者の場合は、ほとんどが10平方ahama未満の小規模土地保有者である。

次にココア生産についてみると、15歳以上の村民のうちココア生産をおこなっている農民の割合は、男性（59%）の方が女性（46%）よりも多い。図1に見るように男女とも自分で土地を保有している農民のほとんどはココアを植えており、この傾向に男女差はない。ココア生産をおこなっている農民の割合に上記のような男女差が出たのは、農地分割契約や分益小作でココアを栽培している人のほとんどが男性であることに由来している（自分の土地を持たずに農地分割契約や分益小作でココア生産をしている農民11人のうち、女性は1人だけである）。また、30歳以上でココア生産をおこなっている人の割合（68人中53人、78%）と比べ、30歳未満でココア生産をおこなっている人の割合はかなり少ない（60人中16人、27%）。未婚・既婚者を比べた場合についても、既婚者でココア生産をおこなっている人の割合が高くなっている。このように年齢層が高く既婚者であるほうがココア生産をおこなう農民の割合が高くなる傾向は、先に述べた土地保有者の割合と年齢・婚姻との関係と共通している。

ココアの収穫量を男女別に見た場合には、その差がかなり明確に現れていることがわかる。女性ココア農民のうち収穫のある人の大部分は収穫量5 bag未満の小規模農民であるのに対し、男性ココア農民で収穫のある人のうち約1/3は、15 bag以上生産する中規模以上の農民である。これは、土地保有面積の大きい農民に男性が多いこと、

女性農民の保有するココア畑の樹が比較的若いこと¹⁵⁾などが、原因となっていると考えられる。またココアの収穫量が小収量（5 bag未満）の農民と大収量（15 bag以上）の農民との間の2極分化は、男性農民の間でより顕著に現れている。

このように大土地を保有しココアの収穫量も多い層が男性に偏っていることは、個人ごとの階層で最上階層の“rank 1”に女性が1人も分類されていない点にも反映されている（表4）。同様に、居住集団を単位とした階層で、女性が戸主である居住集団（5事例）は、“Rich”の階層に該当するものではなく、“Middle”（3事例）と“Poor”（2事例）の階層にそれぞれ属している。個人としての女性農民、および女性を長とする居住集団は、最上階層には見られないことがわかる。

ココアの収穫量を年齢別に見た場合（表7）、30歳未満では5 bag未満の少量の収穫量のケースが多いが、30歳以上50歳未満では5 bag以上15 bag未満の中程度の収穫量のケースがやや多くなり、50歳以上では中程度の収穫量のケースが少なくなって大収量（15 bag以上）と小収量（5 bag未満）のケースに2分される傾向が見られる。さらに50歳以上では、大収量を得ている7人は全て男性農民であり、逆に小収量の9事例のうち7人は女性である。これらの事実から、①ココア生産者の年齢が上がるにつれ、十分に成長し収穫量も多いココア畑の保有者の数が増えてくること、②高年齢層では若年層より小規模経営者と大規模経営者との間の2極分化が進んでいること、③そのうち小規模経営者の極の多くは女性が、大規模経営者の極は男性が占めていること、がわかる。

一方、ココア生産を自分の保有する農地でおこなうか、あるいは農地分割契約や分益小作の管理者としておこなうかの違いと、階層との間には、明確な関係は認められない（表3、表4）。むしろここで重要な点は、（表には示していないが）下層に属する農民でも、農地分割契約によって土地を入手する予定の者がいることである。そしてそのほとんどが、現在土地なし農民で農地分割契約をおこなっている者、すなわち将来土地なし農

民から土地保有者となることが確実な者（7人、ランキングをした全体数の8%）であることは注目に値する。下層に属する土地なし農民の地位は固定的ではなく、従って現在存在している土地保有層と土地なし層の区分も流動的であるといえる。

次に、階層と労働との関係について見ると、農作業で使う労働力の源と階層との間には、かなり明確な関係が認められる。自分の耕作地での農作業に、農地管理者以外の日雇い労働者（baadeini）または契約労働者（opaani）を使用したかどうかのについてを、個人の階層ごとにみた場合、階層が上であるほどこれらの雇用労働力を使う傾向がわかる（表4）。ただし最下層の“rank 6”においても41%が何らかの雇用労働力を使っていることは注目に値する。これは、未開墾地の開墾と畑の新規造成および農地の除草などは、重労働であるため個人のみでおこなうことは負担が大きいためである。そのため夫や成人した子供などの無償の家族労働力が得られない場合は、これらの作業に雇用労働力を使わざるをえない。したがって下層農民で雇用労働力を使わざるを得ない層は、無償の家族労働力を持たない若年層や女性であることが多い。事実、“rank 6”で日雇い労働者や契約労働者を使っている7人のうち5人は、未婚あるいは夫が村外におりかつ15歳以上の子を持っていないというような、家族労働力へのアクセスがない人たちであった。またこの7人のうち5人は女性で、家事・育児などの再生産労働と上記の重労働とを両立させるのがより困難な層でもある。

男性がグループを作って互いの農地で無償の労働提供をおこなう共同労働（nnoboa）が、下層の村民により多く利用されていることも明確に現れている（表4）。nnoboa グループは比較的若い年齢層によって構成されており、彼らは、妻や成人した子供などの無償労働力を得られないうえ、農業労働者を雇用する経済力もない。したがってnnoboaによる共同労働は、このような若年層および経済的に下層に位置する男性耕作者の労働力ニーズに合致した労働形態であるといえる。

居住集団の構成員の年齢構成と階層との関係を

みると、上部の階層ほど15歳以上の構成員が多く（表3）、居住集団内の労働力の大小と階層との間に相関関係があるようにも見える。しかし、これは居住集団内の労働力の人数の違いだけでなく年齢や性別によって労働力の実際の大小が変化すること、居住集団内に複数の生産単位が存在してそれぞれが独自の労働力を調達する場合もあることなどから、単純に相関関係があるとは断定できない。またこれに関連して、居住集団の階層別に、“consumer-worker ratio”（15歳以上の構成員数÷総構成員数）の平均を計算しても、3つの階層の間にはほとんど違いは見いだされなかった（表3）。このことは消費者（構成員全員）に対する生産者（15歳以上の構成員）の割合が高ければ高いほどその世帯の経済的地位は向上する、という法則は、ベボアセ村では認められないことを示している。

階層と労働力の関係を考える上では、居住集団内の労働力の存在自体よりはむしろ、個々人が自分の生産活動のために居住集団内の労働力を使うことができるかどうかが重要になる。例えば、年長の男性である戸主は、居住集団内の妻と子供の労働力を使うことができる（支配権がある）が、同じ居住集団内の若年の息子は自分の労働力以外に自由にできる労働力はない。つまり、居住集団内に労働力は存在していてもそれにアクセスすることができないのである。したがってnnoboaなどの共同労働によって不足する労働力を補うことになる。このように、居住集団内の労働力の構成のみならず、存在する労働力へのアクセスや支配権の有無が、経済的格差と強く結び付いている。そしてこの労働力へのアクセスと支配権のなさが、若年層と女性が相対的に階層の下部に位置することになるひとつの要因となっている。

他人の農地で日雇い労働や契約労働などの労働力販売を行うかどうかと、階層との関係にも、明らかな相関関係が認められる（表4）。個人ごとの階層で“Rank 1”と“Rank 2”に分類された人はそのような労働力販売を全くおこなわないが、階層が下に向かうに従って労働力販売をおこなう人の割合が増加している。同様に居住集団の戸主

及び構成員が労働力販売を行うかどうかについては、“Poor”にランクされた居住集団の構成員が、より労働力販売を行う傾向がある(表3)。

一方、いわゆる“formal job¹⁶⁾”に従事しているかどうかと、階層的な位置づけの間にもかなり明確な関係が認められる。formal jobに従事している村民は、居住集団ごと、個人ごとの、どちらの階層で見た場合も、上部階層に行くほどその数は多くなっている。

村民の教育レベルと階層との間には、ほとんど関係が認められない。むしろ、下層に属する村民の方が相対的に教育レベルが高いようにさえ見受けられる。これは上層階級に高齢者が多く、彼らが修学年齢にあった時代には、学校教育がそれほど普及していなかったことに原因がある。

以上のベボアセ村の階層構造の特徴をまとめると次のようになる。まず、土地の保有面積とココアの収穫量には、男女間および年齢間で顕著な相違があり、これが個人を単位とした階層構造に反映されている。ベボアセ村では、年齢が高く既婚であるほど土地を保有する農民が多くなり、また大土地保有者は年齢が比較的高い男性に限定されている。同様に年齢が高い層ほどココア生産をおこなう割合が高くなり、収穫量も多い。また、土地保有者の割合自体には男女間の差はないものの、その保有面積の違いがココアの収穫量の面で男女間格差を生んでいる。そしてこの男女間格差は、50歳以上の高年齢層でより明確に現れている。先述したように、収入管理の単位は個人であることが多いことから、上記の格差は男女間および年齢間の経済格差にそのままつながっていると考えられる。一方、階層と労働関係の間にも密接なつながりが見られる。上層の農民ほど日雇い労働者や契約労働者を使用する傾向が強いが、下層の農民のうち無償の家族労働力にアクセスできない層(特に女性農民)も、これらの雇用労働力に頼らざるをえない。一方下層の若年層の男性は、不足する労働力を共同労働(nnoboa)で補っている。階層と居住集団内の労働力の数との関係については、両者を単純に結びつけることはできない。むしろ、個人がその年齢・地位・性別に応じてどの

労働力にアクセスまたは支配権があるかが重要である。この労働力に対するアクセスと支配権のなさが、若年層と女性農民の経済的地位の低さの一因となっている。

4. 考 察

以上のように、ベボアセ村の階層構造は、ココア生産、土地保有、労働関係、村民の年齢、ジェンダー関係、居住集団内の構造など、多様な要因と関連していることがわかった。以下では、これらに事実に、村民のライフサイクル、階層構造の変動、階級(class)の未形成、の各視点から考察を加えて結論としたい。

まず年齢の違いと階層構造との間に密接な関連が見いだされた事実は、階層的な地位が個人のライフサイクルの中で次第に変化する性質のものであることを示唆している。若年層は贈与・相続によって土地を取得する機会が少なく、またたとえ早くに土地を得てココアの新規植栽をはじめたとしても、その畑からの収量が増大するまでにはかなりの時間がかかる。また多くが未婚である彼(女)らは、自分が支配権を持つ家族労働力がない。しかし彼(女)らの年齢が高年齢層に達するにつれて、親族からの贈与・相続によって土地を入手する機会が増え、植栽したココアも成長し、家族労働力も豊富になる。そしてこのような変化が、個人の階層的な地位を向上させることを可能にするのである。

女性の場合は男性と比べ、このようなライフサイクルに従って階層を向上させていく過程に様々な不利な条件が存在している。若年層の女性は結婚によって村を離れる可能性が高いために、親族が未婚の女性に土地を贈与することは少ない¹⁷⁾。女性農民の多くが土地を入手し、育児を中心とした再生産労働が軽減して生産活動に自らの労働力をより投入できるようになり、同時に成長した子供の労働力を農業生産に投入できるようになるのは、結婚後子供がある程度成長した後の時期になる。したがって、女性は男性に比べて自分の農地でココア植栽などの生産活動を開始する時期が遅

く、また保有土地面積も少ないことから、ココアの収穫量も男性よりも少なくなる。このことが、中高年層で男女間の経済格差が拡大している大きな要因になっていると考えられる。

ライフサイクルの中で個人が階層的地位を向上させることは可能であるが、最も重要な生産要素であり階層の決定に重要な役割を果たす土地は、ほとんど親族内の贈与・相続によって移動している¹⁸⁾。このことは、個人が将来自らの階層を上げることができるかどうかは、第一に親族が十分な土地を持っているかどうか、次にそれが自分に与えられる可能性があるかどうか、の2つの条件にかなりの程度規定されることを示している。したがって、村内に親族を持たない外部者にはどちらの可能性もなく、土地の入手に関しては親族外の人物には制度が排他的になっている。これが外部者の土地取得を制限し、階層間の移動を親族内部の事象に限定する方向に働いていると考えられる。つまり、ベポアセ村での階層的地位は、個人のライフサイクルや親族内の土地の贈与・相続によって変動するものの、親族の枠を超えたよりダイナミックな階層構造の変動は、起こりにくい構造になっていると思われる。

このように外部者を排した親族内で限定的な階層構造の変動がベポアセ村で見られるのは、この村が1950年代に開村された時点で移住者に土地が分与され尽くし、その後周辺地域でも入手可能な未開墾地が急速に減少したこと、土地制度が他人への土地の売買を禁止する硬直的なものであることの、2つの条件が重要な要因となっていると考えられる。そしてこの2つの要因は、上層階層の農民が土地を集積していく過程を妨げてきたと考えられる。Hillが指摘したような、ココア生産からの利益を土地などの生産要素の購入に再投資してさらに経営規模を拡大する「資本主義的」な農業の展開は、土地売買が許容されかつ未開墾地が豊富だった1950年以前のAkim地域では起こり得た。しかしベポアセ村のあるSefwi地域では、土地の売買を禁止する土地制度と近年の未開墾地の減少のためにそのような農業の発展には限界がある。むしろ逆に、比較的大規模な未開墾地を入手

してココア生産を開始した移住農民の第一世代が死亡・引退するのに伴い、彼らの土地は複数の親族・子供・妻らに分割して贈与あるいは相続されるケースが多く、各個人の土地保有面積は減少していく傾向にある。他方、下層の農民については、土地なし層が農地分割契約などを利用して土地を入手しようとする事例はあっても、その逆の土地を売却して土地なし農業労働者に転落するという事例は見いだされなかった。さらに、農業労働によって賃金を得ている村民も、完全な土地なし農業労働者ではなく、何らかの形で自分の耕作地を持つあるいは親族の保有する土地にアクセスできる人々である。したがって、ベポアセ村における経済格差としての階層の存在は、土地と資本を集積した層と土地を持たない農業労働者の層との分離-階級(class)の形成と呼べる性質のものではなく、また現在の階層構造が今後そのような2極分化に進行する可能性も、少なくとも短期的には低いと考えられる。

注

- 1) 本稿のもとになったフィールドワークは、筆者がアジア経済研究所の海外派遣員としてガーナに滞在中におこなった。本稿の草稿段階においては、島田周平氏、池野旬氏、武内進一氏に貴重なコメントをいただいた。記して深く感謝したい。
- 2) 先に述べたように、この地域の土地は究極的には全てセフィ人の王に帰属するため、村民の土地への権利は厳密な意味での「保有」ではない。しかし以下では便宜上、村民の土地への権利に「保有」という表現を使う。
- 3) 先行研究の中にはこの区別を明確にせずに、本来は「何分割するか」を示すものである“abusa”や“abunu”を、契約の内容(収穫物の分割か農地の分割か)も示すものとして説明しているものもある(例えばArhin 1986)。
- 4) 分益小作、農地分割契約とも、親族間で契約がおこなわれることも多い。夫または妻の親族も含めた親族間の契約は、分益小作の場合39%(23事例中9事例)、農地分割契約の場合53%(17事例中9事例)であった。
- 5) 通常、新規開墾した土地には食糧作物と共にココアが新規に植え付けられ、食糧作物が収穫された後(2年目以降)には、農地にはココアの幼木のみが残る。
- 6) 土地保有権を取得している全事例58のうち、生前贈与による取得は39事例(67%)、相続による取得は11事例(19%)で、両者を合わせると親族からの贈

- 与・相続による土地取得は全体の86%になる。
- 7) ただし、土地の用益権のみを持ち、かつ土地を保有する親族がいない農民は存在する。
 - 8) 農地管理者の全事例37のうち、男性の管理者は33人(89%)である。
 - 9) この共同労働を言い表す際、“me srɛ srɛ” (“I beg [people]” の意) と表現することもある。
 - 10) ココア買い付けを行う生産物購買会社の職員が住む1例は、彼が村外者でかつ一時的な居住者であることから、分析から除外した。
 - 11) 本調査での wealth-ranking の作成は、グランディン(Grandin 1988)が採用している方法に従った。この方法では、各インフォーマントが分類したランキングの数とそのランキングの中で各居住集団の位置づけに応じて、各居住集団に点数をつける。例えばあるインフォーマントが5つのランク分けで分類した場合は、一番上のグループに属する居住集団に20、二番目以降にはそれぞれ40、60、80、100の点数をつける。ランク分けが4つの場合は、点数は25、50、75、100となる。このようにしてつけた各居住集団の点数を合計し、点数の少ない順に並べたものを階層分けを決める基礎とする。最終的な階層の数をいくつにするか、階層をどこで「線引き」するかは、得られた点数を昇順に並べた際に見られる、点数の「ギャップ」の位置や、各インフォーマントがおこなったランク分けの数などを勘案し、さらに各ランク内の事例数や点数の広がりやが極端に偏らないようにしておこなう。
 - 12) この中には農地保有者の他に、分益小作や農地分割契約でココア農地の管理をしている者、一時的に借用した土地で耕作をおこなう者も含んでいる。
 - 13) 一人暮らしの2事例を除いた32の居住集団のうち、耕作地を持つ者が1人だけのケース(一個の居住集団内に生産単位が一個だけ存在するケース)は、7事例(22%)であった。
 - 14) 夫婦が別々に資金管理を行う傾向は、ガーナの都市部でも一般的である(Abu 1983, Oppong and Abu 1987)。
 - 15) ココア生産者のうち、植後10年以内のココア畑しか持たない人は男性の場合46人中15人(33%)、女性の場合は24人中13人(54%)であった。
 - 16) ベボアセ村での formal job の種類には、学校の教師、クリニックの看護婦、ココア買い付け会社の職員などがある。
 - 17) ベボアセ村で女性が最初に土地を入手した時の年齢の平均は34.6歳、同じく男性の平均は23.3歳であった。
 - 18) 親族以外の人々が土地を入手する方法に、先に述べた農地分割契約があるが、調査時点で既に土地が分割され保有権が移動していたのは1事例のみであった。またこの契約をおこなっている事例のうち53%は親族間の契約である(注4を参照)。

参考文献

- Abu, K., 1983. "The Separateness of Spouses: Conjugal Resources in an Ashanti Town," C. Oppong (ed.), *Femle and Male in West Africa*, London, George Allen & Unwin.
- Arhin, K., 1986. *The Expansion of Cococa Production in Ghana: The Working Conditions of Migrant Cocoa Famers in The Central and Western Regions*, Legon, Institute of Statistical, Social and Economic Research, University of Ghana.
- Beckett, W. H., 1944. *Akokoaso: A Survey of a Gold Coast Village*, London, Percy Lund, Humphries & Co. Ltd.
- Beckett, W. H., 1945. *Koransang: A Gold Coast Cocoa Farm*, Accra, Government Printing Department.
- Beckman, B., 1976. *Organising the Farmers: Cocoa Politics and National Development in Ghana*, Uppsala, The Scandinavian Institute of African Studies.
- Benneh, G., 1970. "The Impact of Cocoa Cultivation in the Traditional Land Tenure System of the Akan of Ghana" *Ghana Journal of Sociology*, 6(1), 43-61
- Berry, S., 1975. *Cocoa, Custom, and Socio-Economic Change in Rural Western Nigeria*, London, Oxford University Press.
- Berry, S., 1993. *No Condition Is Permanent; The Social Dynamics of Agrarian Change in Sub-Saharan Africa*, Madison, University of Wisconsin Press
- Grandin, B. E., 1988. *Wealth Ranking in Smallholder Communities: A Field Manual*, London, Intermediate Technology Publications.
- Hill, P., 1956. *The Gold Coast Cocoa Farmer: A Preliminary Survey*, London, Oxford University Press.
- Hill, P., 1963. *The Migrant Cocoa Farmers of Southern Ghana: A Study in Rural Capitalism*, Cambridge, Cambridge University Press.
- Hill, P., 1970. *Studies in Rural Capitalism in West Africa*, Cambridge, Cambridge University Press.
- Hill, P., 1972. *Rural Hausa: A Village and a Setting*, Cambridge, Cambridge University Press.
- IIED (International Institute for Environment and Development), 1992. *RRA Notes No.15: Special Issue on Applications of Wealth Ranking*, London, IIED.
- 児玉谷史朗, 1984. 「ケニアにおける小農の兼業と階層分化」『アジア経済』25-7.
- 児玉谷史朗, 1985. 「ケニアにおける小農の換金作物生産の発展と小農の階層分化」『アフリカ研究』26.
- Konings, P., 1986. *The State and Rural Class Formation in Ghana: A Comparative Analysis*, London, KPI.
- Macmillan, 1987. *Atlas for Ghana*, London, Macmillan.
- Mikell, G., 1989. *Cocoa and Chaos in Ghana*, New York, Paragon House.
- Moock, J. L. (ed.), 1986. *Understanding Africa's Rural Households and Farming Systems*, Boulder, Westview.
- Nyanteng, V. K., 1980. *The Declining Ghana Cocoa Industry: An Analysis of Some Fundamental Problems*, Legon, Institute of Statistical, Social and Economic Research, University of Ghana.
- Okali, C., 1975. *Dominase: A Mobile Cocoa Farming Community in Brong-Ahafo*, Legon, Institute of Statistical, Social and Economic Research, University of Ghana.
- Okali, C., 1983. *Cocoa and Kinship in Ghana: The*

- Matrilineal Akan of Ghana*, London, Kegan Paul International.
- Okali, C. and R. A. Kotey, 1971. *Akokoaso: A Resurvey*, Legon, Institute of Statistical, Social and Economic Research, University of Ghana.
- Oppong, C. and K. Abu, 1987. *Seven Roles of Women: Impact of Education, Migration and Employment on Ghanaian Mothers*, Geneva, ILO.
- Robertson, A. F., 1982. "Abusa: The Structural History of an Economic Contract", *Journal of Development Studies*, 18-4.
- Scoones, I., 1995. "Investigating Difference: Applications of Wealth Ranking and Household Survey Approaches among Farming Households in Southern Zimbabwe", *Development and Change*, 26-1.
- Sender, J. and S. Smith, 1990. *Poverty, Class, and Gender in Rural Africa: A Tanzanian Case Study*, London, Routledge.
- Vellenga, D., 1986. "Matriliny, Patriliney, and Class Formation Among Women Cocoa Farmers in Two Rural Areas of Ghana", C. Robertson and I. Berger (eds.), *Women and Class in Africa*, New York, Africana Publishing Company.
- Whitehead, A., 1994. "Rural Women and Food Production in Sub-Saharan Africa", J. Dreze and A. Sen (eds.), *The Political Economy of Hunger; Volume 1*, Oxford, Clarendon Press.
- 山田秀雄, 1971. 『イギリス植民地経済史研究』岩波書店.